



令和4年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ
長野高等学校 学校長だより
(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和4年
No 4
5月31日(火)

学校前、横断歩道であわや事故。車の「信号無視！」

5月24日(火)の午後、1年生の皆さんは交通安全教室でした。全体の進行等は各HRマスターを中心として運営され、とてもスムーズに進行してくれました。関係した皆さんお疲れ様でした。同日夕方のSBCニュースで報道されたように、スタントマンが実際の事故を再現してリアルな場面を見てもらいましたが、特に、最初の時速40kmで自動車が自転車に衝突する場面はとても衝撃でした。大きな音でぶつかり、自転車の後輪がグシャグシャになってしまいました。広い道路ではもっとスピードが出るので、これで事故に遭ったら……と思うとゾッとします。皆さんに自転車のルールを守ってもらうのは当然ですが、それでも事故は防げません。月曜日にSHRで注意喚起をしてもらった内容を再度詳しく説明します。

5月26日(木)の朝、長野駅から学校までバスを利用している**英語科の徳田先生**から次のような報告を受けました。「バスから降りて少し待って、横断歩道が青の状態で渡ろうとしたら、右手の長野方面から赤信号を無視して侵入してくる車があったので、出ようとした自転車を『危ない!』と制止して止めました。車は横断歩道をスピードを落とさず過ぎ去ってしまい、あのまま自転車が出ていたら間違いなくぶつかっていました。その生徒も青ざめて『危なかった!先生ありがとうございました。』とのことでした。本当に危なかったですよ。」

徳田先生と放課後、現場に行ってどんな状況だったのか現場検証した様子が右写真です。この交差点では**3月にも、信号を無視して侵入してきたバイクと本校生徒の自転車がぶつかる事故**があったばかりでした。この時の生徒はヘルメットを着用していたので大きなけがはありませんでした。自身の命・安全を信号だけにゆだねるのではなく、**たとえ歩行者側の信号が青でも、自分の目で車が来ていないか確かめてください。**

17日(火)に学級閉鎖条件緩和、23日(月)に「医療警報」が解除

医療警報が発出されている期間については、県立の学校では**クラブ活動等について「学校独自の合宿等を行わない。」**との指示がありましたので、今までは遠征や合宿での練習等はできない状況でしたが、これで合宿等も実施できる状況です。また、感染レベルも新たな基準に変更され、レベル3となりましたので、学校での教育活動への特段の制約がない状態となりました。

しかし、依然、学級閉鎖等の措置は継続しているので、手洗い、食事中の対策など、基本的な感染対策は従前と同じように継続してください。ただし、学級閉鎖等の条件が以下のように緩和されまし



1年交通安全教室(スクエアドストレイト)



自転車の生徒は「こんな感じで待っていました。」



「危ないっ!」と生徒の自転車を制止。



た。しかし、緩和されたからと言っても比較的容易に学級閉鎖になる条件だと思われます。

1 学級閉鎖等の条件

(1) 学級閉鎖

次のいずれかに該当した場合は、学級閉鎖とする。

- ① 陽性者が1名発生し、その者の最終登校日から5日を経過するまでに2人目の陽性者が発生した場合
- ② 陽性が確認された者が1名であっても、その者の最終登校日から5日を経過するまでに周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が2名発生した場合
- ③ 1名の陽性者が発生し、一定数(※1)の濃厚接触者(相当者(※2))がいる場合
(※1) 35~40名の学級の場合は5名程度、少人数の学級の場合は10%程度が目安
(※2) 濃厚接触者相当者とは、学校で陽性者が発生した場合に行う行動歴調査において「濃厚接触チェックリスト(事業所等用)」により濃厚接触の可能性があると判断された者をいう。

(2) 学年閉鎖

複数の学級を閉鎖するなど、学年内で感染が広がっている可能性が高い場合
(感染の広がりを検討し、設置者が判断する。)

(3) 学校閉鎖

複数の学年を閉鎖するなど、学校内で感染が広がっている可能性が高い場合
(感染の広がりを検討し、設置者が判断する。)

2 学級閉鎖等の期間

陽性者の最終登校日から5日を経過するまで

5月21日(土)公開授業・講演会・学級PTA・PTA総会開催

当日、午前中の公開授業については保護者の皆さんのみに公開し、223名にお越しいただきました。また、午後のPTA活動を通して、学校の様子やPTA活動についてご理解いただければ幸いです。

さて、PTA総会時の講演後、校長室には生徒4名(1年3名、3年1名)がやってきて質問したりしました。中には「日本の企業は内部留保が多い、という事が言われているが、どう思うか?」というような質問も出て、近くで聞いていたPTA役員の皆さんも驚いて「いや~、高校1年で『内部留保』って知っているんだね~」という声が上がりました。

ちなみに上記の質問に、ヤマトホールディングス株式会社取締役山内雅喜会長は「もともと景気には波がある。アメリカの会社は不況の時には社員を解雇する傾向にあるので内部留保は少なくても良いが、日本は景気の波に関わらず社員を解雇しない。そのためには不況時でも1年間ぐらい社員を解雇しない財力が必要になるため内部留保は多くなる。」とお話されていましたよ。



講演会后、約1時間、校長室で生徒の皆さんの質問に丁寧に答える山内会長。